

教科	公民	科目	公共	担当	
履修学年	2年	単位数	2	履修区分	普通科（必修）
教科書	公共（実教出版）				
副教材等	最新図説 公共（浜島書店）				

1 学習目標

・考察・選択・判断のための手掛かりとなる概念・理論を理解し、諸資料から必要な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。
 ・現実社会の諸課題の解決に向けて、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。
 ・よりよい社会の実現を視野に、現代社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。

2 学習評価

評価の観点		科目の評価の観念の趣旨
a	知識・技能／知識・技術	現代社会の基本的問題と人間としてのあり方生き方にかかわる基本的な事柄や、学び方を理解し、その知識を身に付けている。また、諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を主体的に選択し活用して学び方を身に付ける。
b	思考・表現・判断	現代社会と人間にかかわる事柄から課題を見だし、社会的現象の本質や人間の存在及び価値などについて広い視野に立って多面的・多角的に考察し、社会の変化や様々な考え方を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。
c	主体的に学習に取り組む態度	現代社会の抱える課題の背景を理解することに努め、その具体的な解決方法について自ら考察し、他者へ明確に伝えることができる。さらに他者の意見も取り入れながら協働して問題解決していくことができる。

3 全体計画

期	月	内容の まとめ	単元 (題材)	項目 (学習内容)	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
					a	b	c		
前	4 5 6	第1部第5章 民主国家における 基本原理	1. 民主政治の成立 2. 民主政治の基本原理 3. 民主政治のしくみと課題 4. 世界の主な政治制度				<ul style="list-style-type: none"> 民主政治の誕生と発展について理解する。(a) 法の支配の考え方について理解する。(a) 民主政治の意義と課題について理解する。(a) 議院内閣制・大統領制をはじめとする各国の政治制度について理解する。(a) 日本国憲法の成立経過について理解する。(a) 日本国憲法の基本原則について理解する。(a) 自由権の内容について理解する。(a) 平等権の内容について理解する。(a) 社会権の内容について理解する。(a) 新しい人権について理解する。(b) 公共の福祉について理解する。(b) 日本の安全保障政策の展開について理解する。(b) こんにちの安全保障政策の課題について理解する。(b) 	授業参加 態度 (C) 定期考 査の得点 課題提出 など	
		第2部第1章 日本国憲法の基本 的性格	1. 日本国憲法の成立 2. 日本国憲法的基本性格 3. 自由に生きる権利 4. 平等に生きる権利 5. 社会権と参政権・請求権 6. 新しい人権 7. 人権の広がりや公共の福祉 8. 平和主義とわが国の安全 9. こんにちの防衛問題	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 国会の役割や権限について理解する。(a) 内閣の権限と議院内閣制について理解する。(a) 司法制度のあり方や司法参加の意義について理解する。(a) 地方自治の本旨や住民の権利について理解する。(a) 日本の政党政治の特徴と課題について理解する。(a) 日本の選挙制度の特徴と課題について理解する。(b) マス・メディアや市民運動の意義について理解する。(b) 		
		第2章 日本の政治機構と 政治参加	1. 政治機構と国会 2. 行政権と行政機能の拡大 3. 公正な裁判の保障 4. 地方自治と住民福祉 5. 政党政治 6. 選挙制度 7. 世論と政治参加						
前期中間考査									
前	6 9	第2部-2 第1章 現代の経済社会	1. 経済主体と経済活動の意義 2. 経済社会の変容 3. 市場のしくみ 4. 市場の失敗 5. 現代の企業 6. 国民所得 7. 経済成長と国民の福祉 8. 金融の役割 9. 日本銀行の役割 10. 財政の役割と租税 11. 日本の財政の課題				<ul style="list-style-type: none"> 経済的な効率性と公平性の対立関係について理解する。(a) 政府の規模を念頭に、経済的な課題への対応を理解する。(a) 需給曲線を通して市場メカニズムを理解する。(a) 市場の効率性と公平性はどのように調整されるべきか考える。(b) 企業の役割と社会的責任について理解する。(b) NIから三面等価の原則について理解する。(a) 経済成長と私たちの豊かな生活について考える。(b) 金融を通じた経済活動の活性化について理解する。(a) 様々な金融商品を活用した資産運用に伴うリスクとリターンなどを理解する。(b) 財政の持つ様々な役割について理解する。(a) 租税の在り方について理解する。(a) 	授業参加 態度 (C) 定期考 査の得点 課題提出 など	
		第2章 日本経済の特質と 国民生活	1. 戦後日本経済の成長と課題 2. 転機に立つ日本経済 3. 経済社会の変化と中小企業 4. 農業と食料問題 5. 消費者問題 6. 公害の防止と環境保全 7. 労働問題と労働者の権利 8. 今日の労働問題 9. 社会保障の役割 10. 社会保障制度の課題	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 歴史的な事象が日本経済に与えた影響を、統計資料を基に理解する。(a) 人口減少社会と格差・貧困が経済に与える影響を理解する。(a) 民法改正による成年年齢の引き下げでさまざまな権利と責任が生まれることを理解する。(b) 公害問題は基本的人権との関係でも課題であることを理解する。(b) 日本的雇用形態の崩壊や雇用の流動性が強まるなかで、労働のあり方が問い直されていることを理解する。(b) これからの日本の社会保障制度について、受給と負担のバランスが議論の中心になっていることを理解する。(b) 		
前期末考査									

期	月	内容の まとめ	単元 (題材)	項目 (学習内容)	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
					a	b	c		
後 期	9	第2部-3 第1章 国際政治の動向と 課題	1. 国際社会と国際法 2. 国際連合と国際協力 3. こんにちの国際政治 4. 人種・民族問題 5. 軍拡競争から軍縮へ 6. 国際平和と日本の役割					<ul style="list-style-type: none"> 国際法が戦争の違法化だけではなく、人権擁護環境保護など豊富な内容になっていることを理解する。 国際連合が世界の平和と安全の維持のために多くの専門機関や関連機関と連携していることを理解する。(a) 冷戦期以降の国際政治情勢について、対立する主体に注目して理解する。(a) 人種・民族問題は過去のものではなく、現実の課題として残っていることを具体的な事例から理解する。(b) 冷戦期の軍拡競争以降、世界的な運動によって軍縮が進んでいることを理解する。(a) ODAやPKOだけではなく、人間の安全保障の観点からも国際貢献が求められていることを理解する。(a) 	授業参加 態度(C) 定期考 査の得 点 課題提 出 など
	5	第2章 国際経済の動向と 課題							
後期中間考査									
後 期	11	第1部第1章 社会を作る私たち	1. 生涯における青年期の意義 2. 自己形成の課題(1) 3. 自己形成の課題(2) 4. 職業生活と社会参加 5. 伝統・文化と私たち					<ul style="list-style-type: none"> 青年期において生じるさまざまな変化を理解する。(a) アイデンティティの確立には他者とのかかわりが重要であることに着目する。(a) 働くことには多様な意義があることに着目する。(b) 社会参加が自己形成にも影響を与えることを理解する。(a) 日本風土の特徴と日本人の自然観との関連に着目する。(a) 	授業参加 態度(C) 定期考 査の得 点 課題提 出 など
	5	第2章 人間としてよく生 きる							
後 期	3	第3章 他者とともに生き る	1. 人間と幸福 2. 公正な社会をめざして					<ul style="list-style-type: none"> 帰結主義と義務論の考え方の違いを理解する。(a) ロールズの考え方とセンの考え方の違いを理解する。(a) 	
	3	第4章 民主社会の倫理							
後期末考査									

4. 評点の観点別配点(考査以外も含む合計)

	前期中間	前期末	後期中間	後期末
a	40	40	40	40
b	30	30	30	30
c	30	30	30	30
計	100	100	100	100

※変更がある場合は、教科担任が事前に連絡します。

5. 授業や課題等に取り組む上での留意点

<ul style="list-style-type: none"> ①授業内容を確実に理解すること。 ②基礎知識の定着に努めること。 ③授業を欠席しないこと。
